



Title	GLOCOLブックレット12 目次
Author(s)	
Citation	GLOCOLブックレット. 2013, 12
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48252
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

GLOCOLブックレットの創刊にさいして

「GLOCOLブックレット」は、大阪大学グローバルコラボレーションセンター（以下、GLOCOL）が企画・実施している、教育、研究、実践の3領域にわたる活動の成果を大阪大学内外に知らしめるために創刊されました。2007年4月に開設されたGLOCOLは、大阪外国語大学との統合後の新大阪大学における新たな教育理念を具現化するため、教育プログラムの改革をおこなうことを第一の使命としています。

グローバル化のなかで、現代の世界は、紛争、貧困、文化の衝突、感染症、環境破壊といったさまざまな問題に直面しています。経済的繁栄のなかで、他の国や地域の問題は「他人事」ですましてきた日本という国の住民も、ナショナルな枠組みのなかで安住することはもはや困難になっています。現在の総合大学に課されているのは、こうした世界の状況を適切に理解し、その改善や解決に向けて真の「国際性」(intercultural communicability)をもって主体的に行動することのできる人材を養成することであると考えます。この責務を実現するためには、従来の学部・研究科の枠組みを超えた連携（コラボレーション）が必要です。連携のパートナーには、学外・国外の研究機関、開発援助機関や市民団体も含まれます。GLOCOLの役割は、こうした連携の媒介者兼牽引者となることです。

先端的な教育プログラムの開発は、先端的な研究の裏打ちがあっただけで可能になるものです。GLOCOLが、「人間の安全保障」と「多文化共生」を二つの柱とする研究の推進に力点を置いているのはそのためです。また、GLOCOLにおける教育研究のプロジェクトは、現代世界の動態と深く関連しているがゆえに、学生と教員の双方は必然的に「現実とのかかわり方」の模索を求められることになります。それゆえに、GLOCOLが教育・研究・実践の「三位一体」をスローガンにしているのです。

「GLOCOLブックレット」は、シンポジウム、ワークショップ、研究プロジェクト、教育プログラムの開発、実践とのかかわりなど、GLOCOLのさまざまな事業を報告するメディアです。皆様のご理解とご支援をお願いするしだいです。

2009年2月

大阪大学グローバルコラボレーションセンター
GLOCOLブックレット編集委員会

現代文化を読み解く プラクティス

Practice for Interpreting Contemporary Culture

福田州平 [著]

目次

序	003
【第1部】イントロダクション	007
第1講 現代文化を読み解くということ	009
第2講 若者の内向き論について	019
【第2部】知の政治学	029
第3講 オリエンタリズム(1)	030
第4講 オリエンタリズム(2)	040
第5講 ヨーロッパ的普遍主義と普遍的普遍主義	050
第6講 批判的テロリズム研究の試み	062
【第3部】近代を乗り越えることができるか?	073
第7講 万博を読み解く(1)	074
第8講 万博を読み解く(2)	086
第9講 近代の限界とサステナビリティ	098
第10講 グローバル・クライシスの時代	109
第11講 人間の安全保障	119
補講 落語の政治学	129